

みんなで語る会報告書

- 対象団体 : 指宿市老人クラブ連合会
- テーマ : より魅力ある老人クラブづくりのために、老人クラブが出来ること、行政ができること。
- 開催日時 : 平成30年11月2日(金)(14時00分~15時45分)
- 開催場所 : 指宿老人福祉センター
- 参加者数 : 【指宿市老人クラブ連合会】31人
【指宿市役所】16人
市長, 教育長, 総務部長, 総務部参与, 健康福祉部長, 開聞支所長, 市長公室長, 総務課長, 健幸・協働のまちづくり課長, 長寿介護課長, 山川支所地域振興課長, 山川支所市民福祉課長, 高齢者福祉係長, 高齢者福祉係主査, 秘書係長, 秘書係主事
【総計】47人

○ 会次第

- 1 開会
- 2 市長あいさつ
- 3 意見交換
- 4 指宿市老人クラブ連合会代表あいさつ
- 5 閉会

○ 意見交換の内容

【市民】

老人クラブの活性化のためにはどうすべきか。

また、老人クラブの活動に協力してくれない公民館長がいるが、老人クラブと公民館長との連携について、市長の考えを教えてください。

<市長>

吾平, 田代, 隼人など老人クラブの活動が盛んな地域に学ぶことも必要である。子どもや女性を取り入れた活動をすることで元気になっていくと思う。

公民館の経営研修会が年に1回開催されているが、南薩地区では半分も参加していない。公民館長は地域づくりの核として、地域の悩みを吸い上げて話し合わないといけないが機能していない部分がある。

<教育長>

皆さま方は経験が豊富なので、声かけをしていただくことで若い方は学ぶ機会になる。

【市民】

五郎ヶ岡は550世帯あるが、みんな考え方が違うので、まとめようとしても支障をきたすことがある。また、団地を抱えておりトラブルが多く、解決策が見つからず困っているので、市役所に何でも相談できるような、知恵を授けてくれる部署を設置してほしい。あるところには、コミュニティソーシャルワーカーが地域に入り込んで、色々な問題の相談を受けてくれているようだが、指宿にはそういった人はいるのか。

<健康福祉部長>

1階に地域包括支援センターという窓口があるので利用していただきたい。

<総務部参与>

健幸・協働のまちづくり課 パートナーシップ推進係に地域の悩みや地区の運営について相談に乗ってくれる集落支援員が2人いる。

【市民】

それは知っているが、ある方が、地域包括センターに「相談に行ったけど、たらい回しにされた。」と言っていた。また、集落支援員2名というのも少ないと思う。

公民館長もしていると、老人のことだけでなく、子育てや学校の問題、暴力問題にも対応しないといけない。そのあたりまで踏み込んだ何かあれば便利だと思う。

<健康福祉部長>

地域福祉課の家庭相談員や婦人相談員に相談していただければ、解決に向け相談に乗りたいと思う。

<市長>

例えば、月水金の午前中は職員を地域公民館に張り付けて、役所にいけない時に対応できるようにしている自治体もある。実際の具体的な動きは地域するが、職員が地域にいることによってまとめてくれる。地域に担当職員を割り振ることで地域課題を行政が把握することが今後必要だと思う。次回の計画(後期の総合振興計画)見直しの際に、今の案を入れたいと思う。

しかし、指宿の場合は地域の公民館を大切にしているので、その壁を取り除くのは勇気がいる。

【市民】

ふれあいデイやグラウンドゴルフ協会、寿大学など、自分の好む団体にのみ加入して、老人クラブに入らない方が多い。

<健康福祉部長>

広報紙での特集や活動紹介などを行っている。今後も引き続き加入促進に取り組みたいと考えている。

また、「ふれあいデイ」や「ころばん体操」等を勧誘活動の機会にしていきたい。そのほか、介護保険証を発送するときに、老人クラブ活動を紹介するチラシを配布して、加入の促進を図って参りたい。

【市民】

老人クラブの会員を増やさないといけないということは、今までも言われてきているが変化がない。成功例を参考に指宿市が具体的にどうするのか。

<市長>

来年度事業でモデル地区を作って具体的に組み組んで報告をしたい。

【市民】

組織を作っても役員になる人がいない。

<市長>

業務の分担が良くないということが考えられる。役員が全ての業務を持つのでなく、全ての会員に1人1役となるように役割を分担して、「この行事には誰が行く」というように年間行事表を作って公民館に貼っておくことで役員に対する抵抗が少なくなると思う。会長や役員は上手く連絡をとって調整する役となると良い。

【市民】

公民館や市から助成をもらっているのだから、やらされるのではなく、自らやらないといけない。老人クラブの各会長が意識を変えることが必要。トップに立つ人が主導すれば下はついてくる。

<市長>

良い意見をありがとうございます。

<教育長>

生涯学習の目的は、身に付けたことを自分のものだけにせず、地域に還元することだと思う。子どもたちを取り込んで活動していただければ良いと思う。保護者を巻き込むことも重要である。会長が抱え込むと大変なので、後継者育成のためにも副会長をはじめとした役員がサポートしていただきたい。

【市民】

市からいただいている補助金を全て使ってもバスの借上げは難しいので、市のマイクロバスを利用できるようにしてほしい。

<総務課長>

市町村が保有する自家用バスを、有償無償を問わず他団体が使用すると、道路運送法に違反してしまうということから、市が主催又は後援となっている行事等以外の使用は行っていない。

<市長>

市のマイクロバスが貸せないとしても、対策として予算を組めばいいのかもしれない。綾町では単老に対する予算を単純に分けずに、業績に応じて単老同士が評価しあって、頑張ったところに多く補助金を分けている。

全て出せないかもしれないが、このような施策を検討してみようと思う。

【市民】

免許証を返納した老人クラブ会員に、指宿市独自の補助をすることができないか。

<市長>

何らかの対応をしないといけないと思う。

<健康福祉部長>

「返納カード」を指宿市内でのタクシー利用時に提示すれば、メーター運賃の1割引サービスを受けることができることになっているが、老人クラブ会員に限った補助はない。

【市民】

イッシーバスの小型化して、増便するなど、利便化できないか。

<総務部参与>

今、新たな公共交通体系の検討を行っている。今年度3,000人からアンケートを取っており、来年度から実証実験をする。

<市長>

返納を考えている人が迷わなくて良いような対策を考えないといけない。

要望があったら来てくれる交通体系、いわゆるデマンド交通の在り方を考えている。

学校再編も検討中だが、スクールバスとコミュニティーバスを一緒にするという案もある。あわせて対策を考えている。

【市民】

後期高齢者の医療費の推移を教えてほしい。下がった医療費の1部を還元してほしい。

<健幸・協働のまちづくり課長>

県内ワースト1位ではあるが、1人当たりの医療費は減少傾向にある。

<市長>

健康になるための活動の競争を単老ごとにさせて、1番には1泊2日の指宿のホテル宿泊などの特典をつけたりしたら、面白いと思う。

医療費が下がったら、その1割をこういった取り組みに充てるということも良い案だと思うので、担当課と話をしてみる。

<健康福祉部長>

後期高齢者の1人あたりの医療費は、平成28年度は約1,203,000円、平成29年度1,163,000円である。

<市長>

今日の会の中ででた意見の中で1つでも実現して成果が披露できるようする。出来ること出来ないことあるが意見を大切にしたいと思う。